

内外動向

第13回アジア環境アセスメント会議 in 海南, 中国 (AIC2019) 報告

川村 昂 史*・田 中 章**



写真1 会場 (Hilton Haikou Meilan) の中庭での集合写真

1. 概要

2019年8月22日から24日までの3日間、中華人民共和国海南省海口市において「第13回アジア環境アセスメント会議 in 海南 (13th Asia Impact Assessment Conference in Hainan, China), AIC2019」が開催された。今回は、中国国内のEIA専門家間の全国大会である第6回中国戦略的環境アセスメントフォーラム (6th China Strategic Environmental

Assessment (SEA) Forum) と合わせて開催された。

AIC2019は北京師範大学環境学院主催、南海大学、香港中文大学、香港環境アセスメント研究所の共催により開催された。

会場は、リゾートホテルのHilton Haikou Meilan (海口魯能希爾頓酒店) であり、182名 (内訳: 日本より13名、韓国より23名、中国より146名) の参加者があった。研究発表は23件 (口頭発表22件、ポスター発表5件) 行われた (主な発表は表2を参照)。



写真2 ホテルロビーでのレジストレーション

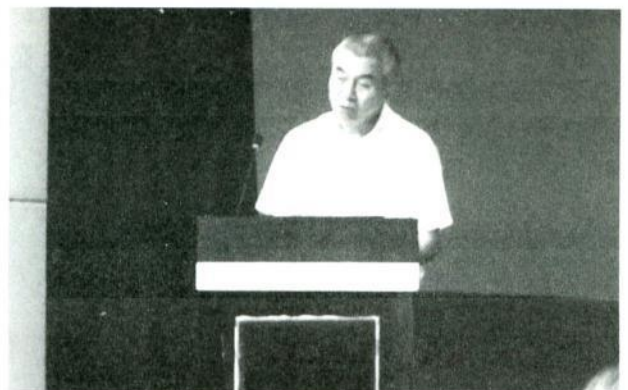


写真3 南海大学 Zhu Tan 氏による開会の挨拶

* 東京都市大学大学院環境情報学研究所, ** 東京都市大学環境学部, 本学会国際交流委員長



写真4 田中充会長による挨拶



写真6 中国生態環境部 Liu Zhiquan 氏による講演

24日はテクニカルビジットが行われ、観光バスで海南島北東部の文昌市に向かい、中国産ココナツの主生産地である広大なココヤシの林をいくつも通り過ぎながら銅鼓嶺国家級自然保護区周辺を巡った。

2. 会議の背景と趣旨

AICはアジア諸国の研究者、実務者、学生等の学術交流を目的とした国際会議である。その起源は2003年に日本で行われた日韓ワークショップにまで遡る。2011年には中国、2017年にはベトナムも加わった。昨年2018年会議は広くアジア諸国にも参加を呼び掛けるということで、名称をアジア環境アセスメント会議(Asia Impact assessment Conference, AIC)とし、静岡県静岡市で開催した(表1)。

3. 開催地の概要

海南省は中国最南端にある海南島にある。島の大部分が熱帯的な気候で、熱帯雨林が発達する等、大陸の省とは異なる自然環境を有する。このため島全体が自然環境保護地域に指定されている。また、中国政府が海南省を自由貿易の特区として指定したことから、南部の三亜市を中心にリゾート開発が進んでいる。

島では中国で利用されるヤシの実やマンゴー等トロピカルフルーツの大半が産出される。また、古い街並みは中国様式と西欧様式が調和した作りになっている場所もあり、そのような街区は保護区としてその姿を残している(写真19)。会場の海口市は島の北部に位置し、文化や経済の中心となっている。テクニカルビジットで訪れた文昌市には自然保護区だけでなくロケット射点があり、中国における科学技術の重要な拠点である。

4. 当日のプログラム

4.1 オープニングプレナリー(2019年8月22日, Hilton Haikou Meilan)

午前9時、南海大学のXu He氏による司会でオープニングプレナリーが開始された。Welcome speechではZhu Tan南海大学教授(写真3)、本学会田中充会長(写真4)、Lee Sang-Don韓国環境影響評価学会会長(写真5)が挨拶を行い、AIC2019が開幕した。次に、Liu Zhiquan中国生態環境部環境影響評価・排放管理部長から“Progress and Prospects of Environmental Impact Assessment in China”と題して中国における環境アセスメント制度の変遷と今後について紹介があった(写真6)。Liu氏に引き続き、



写真5 Lee Sang-Don 韓国 EIA 学会長による挨拶



写真7 香港中文大学 K.C.Lam 氏による講演

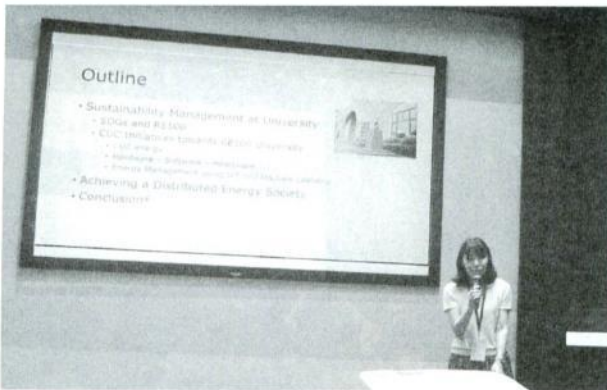


写真8 千葉商科大学 橋本隆子氏による発表

Kin Che Lam 香港中文大学助教授から“Reshaping Impact Assessment Impact Assessment to Respond Human Survival Challenge”と題して持続可能な人間社会を形成するために環境アセスメントを再形成するための方法論等について紹介があった(写真7)。

4.2 研究発表セッション及びポスター展示(1日目及び2日目, Hilton Haikou Meilan)

オープニングプレナリー終了後, SEA フォーラム(中国語)とAIC2019(英語)に分かれて口頭発表セッションが開催された。口頭発表セッションを始める前に今回のAICの運営を行った香港環境影響評価研究所 Clara U氏の挨拶があった。

この日は再生可能エネルギー, 環境保全措置の事例等を中心に13件の口頭発表が行われた。日本からの発表は5件であった。

前半のセッションチェアを田中章国際交流委員長, 後半のセッションのコチエアを柳憲一郎氏が務めた。

日本からの発表として, 橋本隆子氏(千葉商科大学副学長)より“Towards Ethical Commerce -the first university of RE100 in Japan”と題して千葉商科大学でのRE100達成に向けた取り組みの発表があっ

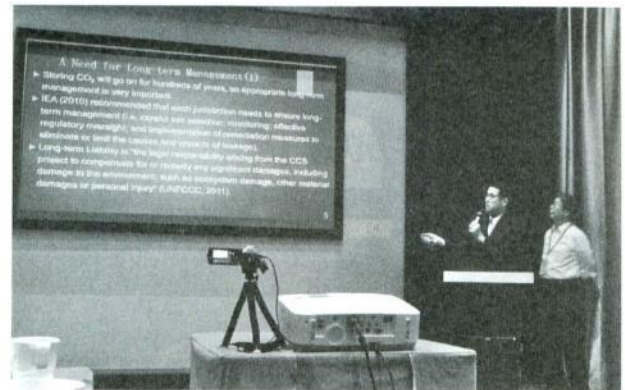


写真10 明治大学 中村健太郎氏と柳憲一郎氏による発表

た(写真8)。村山武彦氏(東京工業大学教授)より“Strategic approach for windfarm development”と題して風力発電所建設に係る戦略的環境アセスメントの在り方について発表があった(写真9)。田中充会長より“Climate Change Impact and EIA System”と題して気候変動と環境影響評価の関係について発表があった。中村健太郎氏(明治大学大学院法学研究科)と柳憲一郎氏(同大学教授)より“The Key Roles of Comprehensive SEA & EIA for Carbon Capture and Storage in Japan”と題してCCS(二酸化炭素の回収・貯蔵)における戦略アセスや環境影響評価の在り方について発表があった(写真10)。田中章(東京都市大学)より“Case Study of Quantitative Ecological Impact Assessment on Satoyama Ecosystem”と題して里山生態系保全活動の定量的な生態系アセスメントの事例紹介があった。

2日目は生物多様性オフセットや生活環境分野等を中心に9件の発表が行われた。日本からの発表は5件であった。

後半のセッションのコチエアを村山武彦氏が務めた。

日本からは川村昂史(東京都市大学大学院環境情報学研究科)が“Trends of Biodiversity Offsets in



写真9 東京工業大学 村山武彦氏による発表

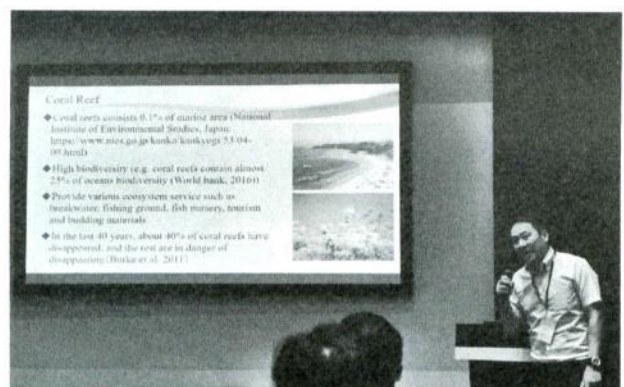


写真11 東京工業大学 竹田進吾氏による発表

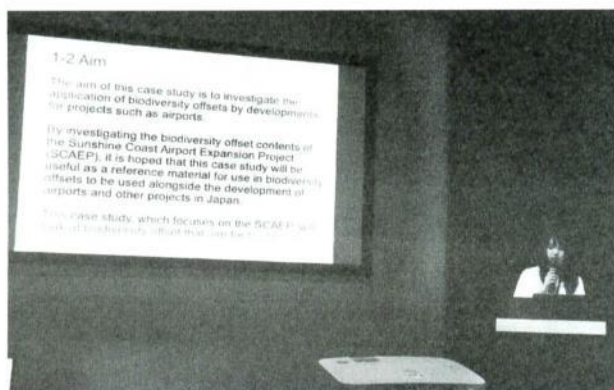


写真12 東京都市大学 陳純氏による発表

Japan”と題して近年の日本における生物多様性オフセット的事例の傾向やその課題を発表した。竹田進吾氏（東京工業大学環境・社会理工学院）より“Assessment on Social Impact related to Coral Offset”と題してサンゴ礁の生物多様性オフセットによる社会的な影響の評価について発表があった（写真11）。陳純氏（東京都市大学環境学部）より“Case study of biodiversity offset in airport- Sunshine coast airport, Australia”と題してオーストラリアでの空港建設に伴う生物多様性オフセットについて発表があった（写真12）。Sita Rahmani氏（東京工業大学環境・社会理工学院）より“Study on Community Renewable Energy Project in Yogyakarta, Indonesia”と題して途上国における地域コミュニティによる再生可能エネルギー導入についての発表があった（写真13）。定行深雪氏（千葉商科大学商経学部）より“USR (University Social Responsibility) for achieving SDGs Activities”と題して大学がSDGsを達成するために果たすべき役割について発表があった（写真14）。

ポスターセッションは1日目午後と2日目午前に実施された。韓国の参加者が中心となり5件の発表が行われた。

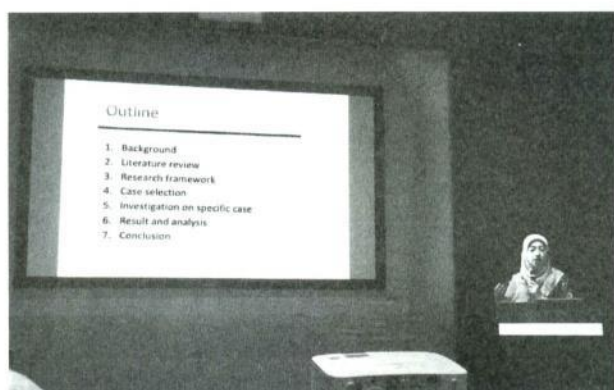


写真13 東京工業大学 Sita Rahmani 氏による発表

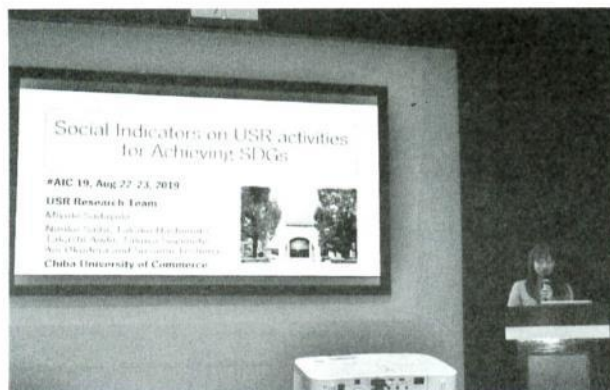


写真14 千葉商科大学 定行深雪氏による発表

4.3 クロージングプレナリー（2日目）

全ての口頭発表が終わり、クロージングプレナリーが開催された。Kin Che Lam氏と田中章国際交流委員長から閉会の挨拶があり、Kin氏からはこれからの環境アセスメントにおいては継続性（Continuity）、分野横断型（Crosscutting）、コミュニケーション（Communication）、連結性（Connectivity）が重要であるとの感想が述べられ、田中章からは中国、香港、韓国との友情に対するお礼と次年度の開催国は韓国またはベトナムとなることが宣言され、AIC2019は閉幕した（写真15）。

4.4 テクニカルビジット（3日目、文昌市）

3日目は海南島北東部の文昌市においてテクニカルビジットが実施された。朝、海口魯能希爾頓酒店に集合し、Clara U氏や北京師範大学の学生スタッフを含めた約20人の参加者が観光バスで文昌市に向かった。

文昌市に入ると、中国に4か所ある内で唯一海に面したロケット発射場である文昌宇宙衛星発射場の前を通過した。ガイドによると、発射場では中国が保有するロケットの中でも最大規模のものを発射するため、観光客が打ち上げを見ようと大勢やって来



写真15 田中章国際交流委員長による閉会の挨拶



写真16 銅鼓嶺から月亮湾を望む

るとのことだった。

衛星発射場から15分ほど走り、最初の目的地である銅鼓嶺国家級自然保護区のビジターセンターに到着した。ビジターセンターから保護区の山頂までは専用のシャトルバスで移動した。シャトルバスを降り10分ほど散策路を進み、展望台から眼下に広がる月亮湾の眺めを楽しんだ(写真16)。

自然保護区を後にし、昼食を航天科技小康村にてとった。ここでは文昌の名産品である文昌鶏の蒸し鶏が供された。

昼食の後は東郊椰林にて海南島名物のヤシ林の見学を行った(写真17)。ここではヤシ林と砂浜を見ることができただけでなく、南国ならではのココナツウォーターや椰子の実を使った餅等も食べることができた。

最後に文昌市街地の文南老街(中国様式と西欧様式が調和した景観を形成する歴史的街並み)の見学を行った。街には様々なテーマで作られたブロンズ像が設置されており、参加者はそこで写真を撮る等して街並みを楽しんだ。

全ての見学が終了し、途中海口美蘭国際空港で北京師範大学の学生スタッフと別れ、集合場所のホテ



写真17 東郊椰林のココヤシ林と砂浜



写真18 海南島が発祥のハイナンチキンライス

ルに戻った参加者は来年のAIC2020での再会を誓って別れを惜しんだ。

5. 所感

今年のAICは中国国内向けSEAフォーラムと同時開催であったため、盛大な会となった。

今年は海外開催だったにもかかわらず日本からの参加者が13名、発表件数10件となり、国内においてもAICの知名度が上がってきたのではないかと感じた。今年も参加者の年齢層が幅広かったことも昨年度から続く特徴であったと思う。最年少は日本から参加した学部2年生であった。こうした様々な国籍、年代の環境アセスメントを学ぶ人々の交流を支える場として活用されているAICに参加できたことは大変貴重な経験となった。

当地ならではのハイナンチキンライス(写真18)をはじめとした数々の料理や、海口騎楼老街等の昔の佇まいを残すダウンタウン(写真19)の街並み等と触れ合えたことも素晴らしかった。

最後に、国際交流委員長からの呼び掛けに応じて日本からAIC2019にご参加頂きました皆様に厚く感謝申し上げます。



写真19 西欧様式の影響が残る海口騎楼老街

表1 これまでのAICの開催実績

回数	開催場所	開催年月	大会テーマ
第1回	東京, 日本	2003年12月	韓国環境アセスメント制度の新展開
第2回	済州島, 韓国	2004年11月	戦略的環境アセスメントに向けた新展開
第3回	横浜, 日本	2006年9月	撤去と復元の環境アセスメント
第4回	釜山, 韓国	2008年11月	日韓の環境アセスメントの現場から学ぶ
第5回	名古屋, 日本	2010年9月	生物多様性と環境アセスメント
第6回	北京, 中国	2011年8月	効果的なEIA・SEA
第7回	済州島, 韓国	2012年11月	環境アセスメントによる開発責任と地域連携
第8回	千葉, 日本	2013年11月	持続可能な社会の礼儀としての環境アセスメント
第9回	大田, 韓国	2015年10月	我々の求める環境アセスメント
第10回	延辺, 中国	2016年8月	越境開発と環境アセスメント
第11回	ダナン, ベトナム	2017年8月	環境アセスメントと事後管理
第12回	静岡, 日本	2018年8月	グリーン・リージョンと環境アセスメント
第13回	海南島, 中国	2019年8月	環境アセスメントの理論と実践



写真20 大会運営のために北京から駆けつけてくれた北京師範大学の大学院生



写真21 ホテルでのレジストレーションを担当してくれた南海大学の学生諸君



写真22 海南島を時速270 kmで走行する海南東・西環鉄道



写真23 波をイメージして作られた海南東・西環鉄道の勇壮な三亜駅舎

表2 AIC2019 in 海南, 中国での主な発表

タイトル	著者	所属
Towards Ethical Commerce -the first university of RE100 in Japan	Takako Hashimoto	Chiba University of Commerce, Japan
Reforming EIA System -A Comparative Review	Wu Jing	Nankai University, China
Water Quality Assessment of the Four Major Rivers in Korea	Hong Myung Kim Jong Ho Lee Sung Ryong Ha	Chungbuk National University Cheongju University, Korea Chungbuk National University
EIA Implementation during Construction of Centre-Wan Chai Bypass	Mohamed Hasan Isa	Hong Kong Institute of EIA, China
Strategic approach for windfarm development	Takehiko Murayama	Tokyo Institute of Technology, Japan
China's photovoltaic development strategy	Xu Yuan	Chinese University of Hong Kong, China
Climate Change Impact and EIA System	Mitsuru Tanaka	Hosei University, Japan
The Key Rules of Comprehensive SEA & EIA for Carbon Capture and Storage in Japan	Kentaro Nakamura Kenichiro Yanagi	Meiji University, Japan Meiji University, Japan
Case Study of Quantitative Ecological Impact Assessment on Satoyama Ecosystem	Akira Tanaka	Tokyo City University, Japan
Practice of Environmental Impact Assessment in Hong Kong: The case of Lei Yue Mun Waterfront Enhancement Project	Jenny Tsang Matthew Tang	Hong Kong Special Administration Region, China Hong Kong Special Administration Region, China
Impacts of urban development and human activities on two mangrove ecosystems along shenzhen river: a comparison study between Mai-po and Fu-tian Mangrove nature reserves	Jinping Cheng	Hong Kong University of Science and Technology, China
Building Asian Connection to Control over the Transboundary Air Pollutants	Jung Jong-Gwan	Chungnam Institute, Korea
Research on assessing the effectiveness of green tax reform- An evidence from panel data analysis in China	Lai Xiaodong	South China Normal University, China
Moving Slowly but Steadily: Korea's integration of the social safeguards in EIA system	Eunyoung Lee	Gaia Consult.Inc., Korea
Trends of Biodiversity Offsets in Japan	Takafumi Kawamura Takeru Shiroki Akira Tanaka	Tokyo City University, Japan Tokyo City University, Japan Tokyo City University, Japan
Building the First World Class Thoroughbred Training Centre and Racecourse in Conghua, China – Design, Implementation, Opportunities and Challenges	Samuel Kwong	Hong Kong Jockey Club, China
Assessment on Social Impact related to Coral Offset	Shingo Takeda Takehiko Murayama Shigeo Nishikizawa Atsushi Nagaoka	Tokyo Institute of Technology, Japan Tokyo Institute of Technology, Japan Tokyo Institute of Technology, Japan Tokyo Institute of Technology, Japan
Case study of biodiversity offset in airport -Sunshine coast airport, Australia-	Chun Chen Yuki Inoue Akira Tanaka	Tokyo City University, Japan Tokyo City University, Japan Tokyo City University, Japan
Study on Community Renewable Energy Project in Yogyakarta, Indonesia	Sita Rahmani Takehiko Murayama Shigeo Nishikizawa	Tokyo Institute of Technology, Japan Tokyo Institute of Technology, Japan Tokyo Institute of Technology, Japan
EIA follow-up: Application of Smart Technologies for Environmental Monitoring & Audit in Hong Kong	Clara U	Hong Kong Institute of Environmental Impact Assessment, China
Analysis of the current situation of apple orchard soil in Qixia City, Shandong	Zhuo Huimin	Shandong University, China
USR (University Social Responsibility) for achieving SDGs Activities	Miyuki Sadayuki	Chiba University of Commerce, Japan